

プレコンセプションケアの推進に向けた令和7年度の取組み

- －1 大阪府性と健康の相談センター事業
- －2 大阪府早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業

令和8年3月17日

プレコンセプションケア推進5か年計画（概要）

～性と健康に関する正しい知識の普及と相談支援の充実に向けて～

背景と経緯

- 「**「「生育医療等基本方針(令和5年3月改定)」にプレコンセプションケアの推進についての方針が定められたほか、「「経済財政運営と改革の基本方針2024」に「「相談支援等を受けられるケア体制の構築等プレコンセプションケアについて5か年戦略を策定した上で着実に推進する」旨が盛り込まれた。**
- 若い世代が自分の将来を展望する際に、性や健康・妊娠に関する正しい知識の取得方法や、相談する場所・手段について、必ずしも広く知られていない現状を踏まえ、「**プレコンセプションケアの提供のあり方に関する検討会 ～性と健康に関する正しい知識の普及に向けて～**（座長：五十嵐隆国立成育医療研究センター理事長）」において、プレコンセプションケアに係る課題と対応について整理を行い、「**プレコンセプションケア推進5か年計画**」を策定。

プレコンセプションケアの概念及び現状・課題とそれに対する基本的な考え方

1. プレコンセプションケアに関する概念の普及

- プレコンセプションケアは「**性別を問わず、適切な時期に、性や健康に関する正しい知識を持ち、妊娠・出産を含めたライフデザイン（将来設計）や将来の健康を考えて健康管理を行う**」概念であるが、言葉自体や概念についての**認知度は低い**。
- 思春期から成人期に至るまで、性別を問わず**全ての人が、発達段階や状況に応じてプレコンセプションケアという概念を知り、それに関する知識について、適切に身につけることは重要**。

2. プレコンセプションケアに関する相談支援体制の充実

- プレコンセプションケアに関する相談先として、自治体における「性と健康の相談センター」等があるが、広く知られていない現状がある。
- 若い世代の方が、**より相談しやすくなるような体制づくりが必要**。

3. 専門的な相談支援体制の強化

- 基礎疾患のある女性が、説明を受けないまま、妊娠する方がいる実情や、かかりつけ医等と産婦人科医の連携が不十分という指摘も。
- 産婦人科以外の医師もプレコンセプションケアに関して十分な知識を持つとともに、かかりつけ医等と産婦人科医の必要な連携に資する情報提供資料が必要である**。

取組推進にあたって

- プレコンセプションケアの推進にあたっては、**若い世代の意見を聴き、当事者のニーズに沿った取組を実施し施策の効果を定期的に評価**。
- 国は、国立成育医療研究センターと連携し技術的に支援、自治体は国の「5か年計画」を参考に「**地方版推進計画**」を策定する等計画的に推進。

今後5年間の集中的な取組

【目標】
認知度 80%
プレコンサポーター
5万人以上

対象者層



性や健康に関する正しい知識の普及と情報提供

- ★ SNS等を活用した積極的な情報発信。
- ★ プレコンセプションケアの普及に係る人材（プレコンサポーター）を育成するとともに、啓発資料の作成等、自治体・企業・教育機関等における**講演会等の開催支援**。

【目標】
相談窓口認知度
100%

相談支援の充実（一般相談）

- ★ 「性と健康の相談センター」等プレコンセプションケアに関する**一般的な相談ができる窓口の認知を推進**。
- ★ **身近な地域において医療機関等も含め、専門家による相談支援体制の整備を図る**。
- ★ 夜間休日対応の実施や、電話・オンライン相談、メールやSNSの活用等、**相談者の利便性に配慮**。

相談支援の充実（専門相談）

- ★ 基礎疾患を有する方等が、医療機関等でプレコンセプションケアに関する相談ができるよう、**全国に相談窓口を展開**するとともに、専門外の医師の適切な対応にも資するよう、**医療者用相談対応マニュアルを作成し、周知**。

【目標】
専門相談医療機関数
200以上

プレコンセプションケア推進 5 か年計画指標一覧

(国が実施する今後 5 年間の集中的な取組)

III. 1. 性や健康・妊娠に関する正しい知識の積極的な普及と情報提供			
項目	指標	現在	5年後の目標
プレコンセプションケアに関する知識の深化	若い世代におけるプレコンセプションケアの概念の認知度	1割以下	80%
プレコンセプションケアの普及に係る人材育成	プレコンサポーターの人数	—	5万人以上
自治体・企業・教育機関等でのプレコンセプションケアについての取組のサポート	自治体における性と健康の相談センター事業の実施率（連携して行う場合を含む）	約70% （※1）	100%
	企業におけるプレコンセプションケアに関する取組の実施率	約30% （※2）	80%
III. 2. プレコンセプションケアに関する相談支援の充実（一般相談）			
	若い世代における一般的な相談窓口の認知度	—	100%
III. 3. プレコンセプションケアに関する医療機関等における相談支援の充実（専門相談）			
	プレコンセプションケアに関する専門的な相談ができる医療機関数	約60機関 （※3）	200以上

※1 90/129自治体（令和4年度変更交付ベース）

※2 令和6年度健康経営度調査に回答した大規模法人3,869社中

※3 参考：妊娠と薬外来の拠点病院は57か所（令和6年3月時点）

大阪府 性と健康の相談センター事業 実績

※R7は2月末までの速報値

不妊・不育 電話相談

【相談時間】

- ・第1・第3水曜日 10時～19時
- ・第1～第4金曜日と第2・第4水曜日10時～16時
- ・第2土曜日 13時～16時

【相談員】

助産師（1名体制）

【背景・評価】

- ・令和5年度よりセンター名称を変更したことにより、男性からの相談が増加したと推測される。
- ・相談員連絡会議では、女性の相談件数が減少、男性の相談件数の増加の要因として、女性の相談については、SNS相談等、相談窓口が多様化しているため、相談希望者が分散している一方で、男性が相談できる場所はまだまだ少ないことが挙げられていた。



不妊・不育 面接相談・カウンセリング

【女性産婦人科医師による面接相談】

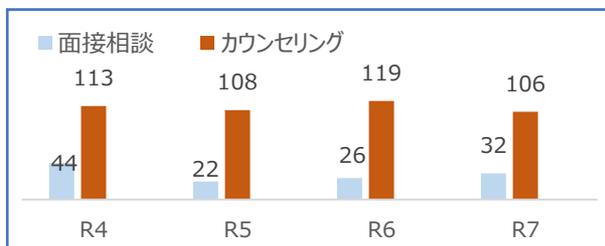
第2土曜日 14時～17時
30分/組・4組/日 ※利用は1組1回まで

【助産師又は公認心理師によるカウンセリング】

第1・第3土曜日13時～17時、
月2回木曜日18時半～20時半（50分/組）

【背景・評価】

- ・カウンセリングは実施枠が決まっているため参加者数は概ね横ばいで推移。
- ・R4年度の不妊治療の保険適用化に伴い、R5年度からは面接相談件数が落ち着いている。



グリーフケア

【開催時間】

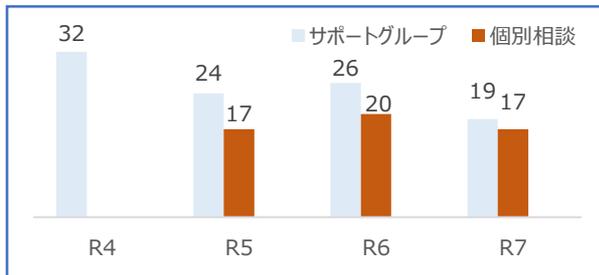
偶数月第4水曜日と奇数月第4土曜日
14時～16時 定員4名程度

【相談員・ファシリテーター】

ピアカウンセラー又は助産師

【背景・評価】

- ・R4年度から開始、R5年度から個別相談を新設。
- ・個別相談の開設により、最初からサポートグループへの参加はハードルが高いと考える相談者の受け皿となり、相談件数の増加に繋がったと推測。



カラダと性の相談室（チャット）

【相談時間】

第1～第4金曜日 16時～20時

【相談員】

助産師（1名体制）

【背景・評価】

- ・R5.6月から開始。
- ・主な周知先は高等学校や大学等の教育機関。
- ・R7より相談者を大阪府在住、在勤、在学の方へ限定したため、件数が減少。



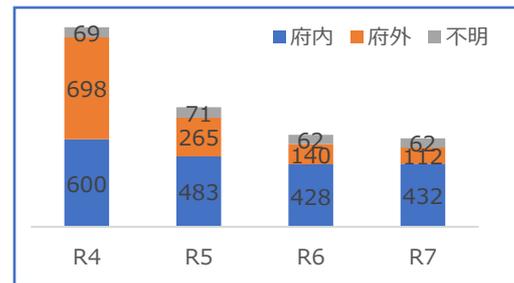
にんしんSOS

【相談時間】

月～金曜日（祝日除く） 10時～16時
日曜日 正午から18時

【相談員】

保健師・助産師（2名体制）



【背景・評価】

- ・R5年度以降、府内からの相談件数の減少幅に比べ、府外からの相談件数の減少幅は大きい。要因として、近隣のにんしんSOSの開設等によるものと推測。
- ・相談者の年齢は、10～20代の若年者が多く、R6年度は10代の相談が全体の3割、そのうち学生は全体の4割を占めた。
- ・R6年6月より、これまでの電話・メール相談に加え、通話料のかからないLINEコールによる通話相談を新たな相談方法として追加。

妊娠と薬の相談支援

【R6.10月から開始】

【相談時間】

医療機関による

【相談員】

産婦人科医



【背景・評価】

- ・成育医療研究センターでの問診システムに登録後、都道府県の医療機関へかかる必要があり、通常の相談支援よりもハードルが高い。
- ・R7については府民向けの講座開始前に制度を案内する等により周知を図った。

カラダと性の相談室(チャット相談)の相談実績(R7)

性別

性別	総数	%
女性	64	58.2%
男性	36	32.7%
不明	10	9.1%
合計	110	100.0%

年齢

年齢	件	%
～19歳	54	49.1%
20～29歳	18	16.4%
30～39歳	16	14.5%
40～49歳	9	8.2%
50～59歳	3	2.7%
60代以上	1	0.9%
無回答	9	8.2%
合計	110	100.0%

10代、20代の割合が約6.5割

相談主訴

項目/月	合計	(%)
心身に関する相談	25	22.7%
妊娠・避妊に関する相談	10	9.1%
メンタルケア	4	3.6%
不妊に関する相談	3	2.7%
思春期に関する相談	28	25.5%
性感染症等	5	4.5%
婦人科疾患、更年期障害	3	2.7%
その他	32	29.1%
合計	110	100.0%

チャット相談に寄せられる相談内容（一部抜粋）

○心身に関する相談

おりものや生理、月経痛について、自分自身の性（トランスジェンダー）について、セルフプレジャーへの悩み、包茎について

○妊娠・避妊に関する相談

パートナーとの性行為について、性行為に対する恐怖感について、妊娠不安、疾患や薬の服用による影響について、避妊対策について

○思春期に関する相談

思春期の親族との接し方、射精について

○その他

医療機関の診療内容に関する不安、未成年者の婦人科受診について、

大阪府 性と健康の相談センター事業 プレコンに関する取り組み

特設サイト「大切なからだところのために」の運営

大切なからだところのために

大切なからだところのために

知っておいてほしい
プレコンセプションケアのこと

性と生殖に関するからだ
こころの健康にとって大切なこと

～セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツって？～

みなさんは、「セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ
(Sexual Reproductive Health and Rights, SRHR)」という言葉を知っていますか。

もっと知る +

性と生殖に関するからだ
こころの健康にとって大切なこと

「プレコンセプションケア」とは若い男女が将来のライフプランを考えて、日々の生活や健康と向き合うことです。早い段階から正しい知識を得て健康的な生活を送ることで、将来の健やかな妊娠や出産につながり、未来の子どもの健康の可能性を広げます。

プレコンセプションケアって？

もっと知る +

- ・令和7年3月より運営開始。
- ・10代・20代の若年層を対象としたプレコンセプションケアに関する特設サイトを運営し、性や妊娠に関する正しい知識の普及及び健康管理の促進に向けた情報の発信を行う。

【サイトURL】

<https://caran-coron-precon.jp/>



大学との連携

プレコンセプションケアに関する啓発 (大学との連携)

《実施概要》

- ・実施日：2025年11月2日（日）～3日（月）
- ・場所：大阪公立大学なかもずキャンパス 白鷺祭会場内
大阪公立大学女性学研究センター（ORGEL）出展
「学んでみよう意外と知らない『性』のコト」
- ・実施内容：プレコンに関する啓発ツール等の展示及び配布
- ・対象：在校生、卒業生、一般来場者
- ・参加者数：11月2日（日）112名、11月3日（月）277名

《展示及び配布物》

- ・啓発ポスター、カード
- ・カラダと性の相談室
【チャット相談】チラシ
- ・プレコンノート
- ・大阪府早産・早産不全患者等妊よう性温存治療女性試行事業チラシ

《参加者の反応》

- ・多くの若者が参加されており、「これまで知らなかった」「来てよかった」「面白かった」といった感想を多くいただいた。
- ・プレコンノートや啓発カードを興味深く手に取られている方も多く、テーマへの関心の高さがうかがえた。

おおさか性と健康の相談センター
caran-coron

大阪府 性と健康の相談センター事業 プレコンに関する取組み

オンラインセミナーの開催

参加無料

オンラインセミナー

ユース世代に届ける プレコンセプションケア

～性と生殖に関する健康と権利 (SRHR) の視点から～

若者が自分の身体を大切に、ライフプランを主体的に選択できるようにするためには、一人ひとりが性と健康に関する正しい知識を持つことが欠かせません。そのために重要なのが「プレコンセプションケア」と「SRHR (性と生殖に関する健康と権利)」の視点です。

本セミナーでは、プレコンセプションケアの基本やSRHRの考え方についてわかりやすく解説し、安心して相談できる環境づくりにも触れながら、行政、医療、教育、そして家族など、それぞれの立場から、若者の未来を支えるために、今できることを一緒に考えます。

配信期間 1月20日 (火) ▶▶ 2月10日 (火)
対象 テーマに関心のある方

講師 池田裕美枝
海と空クリニック京都駅前 院長
一般社団法人 SRHR Japan 代表理事

お申込み方法
下記QRコードからお申込みください。

お問合せ
おおさか性と健康の相談センター
TEL 06-6910-1310
受付時間：(火～金) 13:30-18:00/18:45-21:00 (土・日) 9:30-13:00/13:45-18:00

【主催】大阪府・大阪市 【企画・運営】一般社団法人大阪府男女共同参画推進財団

申込件数：607件
視聴回数：656回

R8の取組み

プレコン出張相談会の実施

プレコンセプションケアの推進に向けた新たな取組みとして、10代～20代の男女を対象に、それぞれのライフステージに応じた必要な情報を発信し、認知度向上を図るとともに、より相談者が相談しやすい環境を提供するため、出張相談会を実施予定。

(想定している内容)

主な対象	目的	実施場所 (予定)
大学生	若者へのプレコンに関する基礎知識等の啓発を行う。	大学
小学校高学年～中学生とその保護者	子どもが自分の身体や性について正しい知識を持つとともに、保護者が性教育に対する不安や疑問を解消し、家庭での対話を促進する。	商業施設
社会人	働く世代の健康やライフデザインの支援を行う。	公共施設

にんしんSOSの周知・啓発

- SNSを活用した広告を実施。
周囲の方が悩みに気づいた場合、相談できることも併せて周知。
- 緊急避妊薬のスイッチOTC化に伴い、府薬剤師会と連携し、府内の薬局において緊急避妊薬の購入者に渡していただけるよう周知カードを配付。
※カードは、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター周知との両面の構成

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業の実績(令和8年2月末日時点)

講座・各種費用助成の実績

【7/10～】早発卵巣不全患者の卵子凍結助成受付開始

【8/27～】プレコン講座開始

開催日		申込者数	出席者数	10代		20代		30代		平均年齢
				人数	割合	人数	割合	人数	割合	
第1回目	8月27日	201	178	0	0.0%	26	14.6%	152	85.4%	33.8
第2回目	9月10日	183	148	1	0.7%	27	18.2%	120	81.1%	33.3
第3回目	9月24日	124	98	0	0.0%	22	22.4%	76	77.6%	33.0
第4回目	10月8日	108	88	1	1.1%	30	34.1%	57	64.8%	31.8
第5回目	10月22日	89	73	0	0.0%	19	26.0%	54	74.0%	32.2
第6回目	11月12日	149	120	1	0.8%	22	18.3%	97	80.8%	33.0
第7回目	11月26日	110	85	0	0.0%	32	37.6%	53	62.4%	31.4
第8回目	12月12日	84	68	0	0.0%	27	39.7%	41	60.3%	31.1
第9回目	12月23日	86	68	1	1.5%	22	32.4%	45	66.2%	31.9
第10回目	1月9日	98	87	0	0.0%	31	35.6%	56	64.4%	31.3
第11回目	1月24日	142	125	0	0.0%	39	31.2%	86	68.8%	31.6
第12回目	2月5日	171	147	0	0.0%	52	35.4%	95	64.6%	31.2
第13回目	2月19日	170	141	1	0.7%	53	37.6%	87	61.7%	31.0
計		1,715	1,426	5	0.4%	402	28.2%	1019	71.5%	32.0

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業の実績(令和8年2月末日時点)

講座・各種費用助成の実績

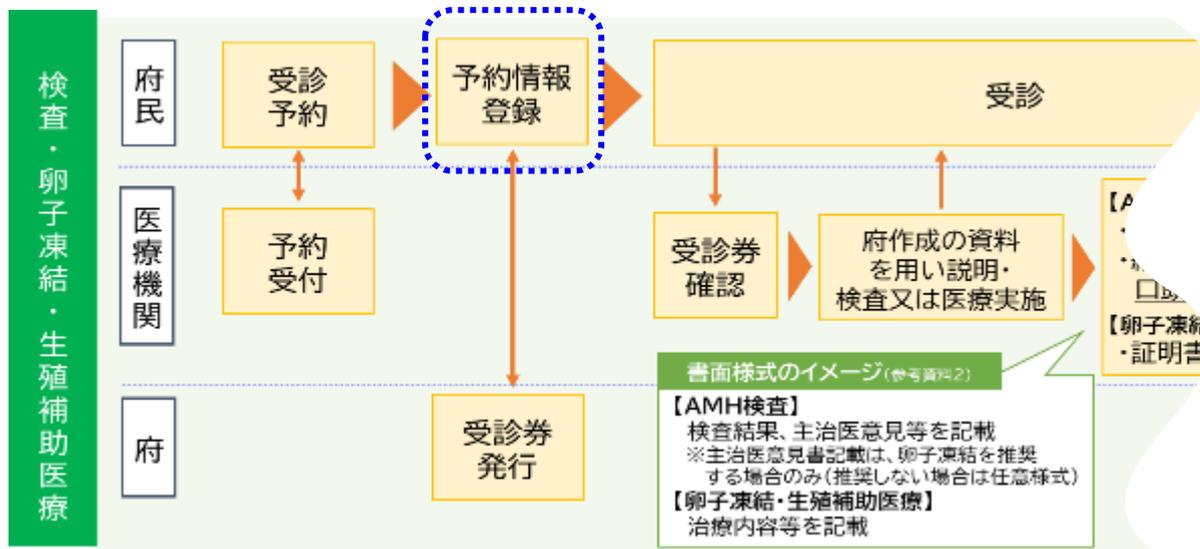
【7/10～】早発卵巣不全患者の卵子凍結助成受付開始 【8/27～】プレコン講座開始

プレコン講座受講対象者							
申込者数	出席者数	アンケート回答者数		AMH検査 予約登録者数		卵子凍結 予約登録者数	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
		1,715	1,426	1,375	96.4%	946	66.3%

早発卵巣不全患者
卵子凍結 予約登録者数
人数
22

※予約登録者数:医療機関受診前に府のシステムへ受診予定の情報を登録いただいております、その登録者数を集計
(参考)助成申請受付数【AMH検査】501件【卵子凍結】24件

【参考】事業フロー



【参考】プレコン講座を知ったきっかけ

選択肢	回答数 ※複数回答可
大阪府ホームページ・チラシ	480名
医療機関からの紹介	350名
友人・知人からの紹介	151名
その他	110名

- ・YouTube(産婦人科医のチャンネル)
- ・X/Instagram・ニュース、ネットニュース
- ・Google検索/「卵子凍結 大阪」で検索した。
- ・協会けんぽ(メルマガ)、グレイスバンク
- ・chat GPT/検索したらAIがお勧めしてくれた。
- ・家族からのすすめ

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業 プレコン講座について

講座に対する意見①

※主な意見を抜粋。趣旨を変えない範囲で府において一部編集。

区分	内容
<p>全体的な感想等</p>	<p>【講座の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSなどでは不確かと感じられる情報が多く、専門の先生による情報を入手しにくいと感じていたため、<u>今回初めて専門の医師から話を聞くことができ初めて知る情報も多く、大変勉強になった。</u> ・<u>実際の統計やグラフで専門家による説明を聞き、大方は理解していたが、改めて深く危機意識を持てた。</u>自分で判断し選択することはとても重要だと感じた。 ・仕事が優先で、何か調べたり、病院に行ったりとした行動に移せておらず、<u>web講座で情報を得ることができて助かった。</u> ・<u>妊娠出産についてはセンシティブでなかなか友人や知人と深く話すことが難しく、経験談も聞けて良かった。</u> ・<u>卵子凍結も必ずしも推奨するわけではなく、その選択肢を持たせてくれるような研修会であったのが良かった。</u> ・<u>妊娠出産に適齢期があることについて、もっとはやく知っていたら、出産の時期を前倒しに調整していた(もっと若いうちに婚活、妊活をしていたのではないか)と思う。</u> <p>【今後の生活について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>自分の体やライフプランを見つめ直すきっかけになった。</u>今後もっと健康を意識して後悔のない人生を送りたいと思った。 ・<u>女性の大切な妊娠・出産のことなのに知らないことばかりで、ぼんやりと妊娠できるだろうと思うよりも<u>しっかり行動に移して、積極的になることが必要だと感じた。</u></u> ・<u>自分の努力で変えられる部分はたくさんあることを学び、日々の改善に繋がりたい。</u>
<p>知れてよかったこと</p>	<p>【身体や妊娠の仕組み・プレコン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>年齢と不妊の相関について驚いた。</u> / AMHの値が高い45歳より、値が低い25歳の方が妊娠しやすいという点は驚いた。 ・<u>1回の月経周期で1000個の卵子がなくなること。</u> ・<u>栄養の摂り方や睡眠などの生活について、今まで妊活している中で足りなかったものがあったのに気づいた。</u> ・<u>妊娠前に葉酸サプリを服用した方が良いということと、最小摂取量や、摂取時期について。</u> ・<u>POIという病気があることを初めて知った。</u> ・<u>低用量ピルやLEP剤には、妊娠する能力を温存させるといった効果は特にないということ。</u> <p>【卵子凍結】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>卵子凍結をしたからといって絶対的に妊娠できるものではないということ。</u> 40歳前後での妊娠率は高くないこと。 ・<u>一人妊娠するのに10個の卵子が必要になること。</u> ・<u>若いうちしておいた方が良いということ。</u> ・<u>解凍した卵子は劣化する懸念があったが、今回”それはない”ということを教えてもらえてよかった。</u> ・<u>質疑応答集が、自分が聞きたいことであった。</u> ・<u>凍結卵子解凍時の生存率が90%であること。</u> ・<u>採卵する卵子については本来使用されない卵子であること。</u> 前借りをするのかと思っていたので安心できた。 ・<u>採卵する際の痛みについて「大丈夫だと思う」と先生がおっしゃってくださっていて安心した。</u>

講座に対する意見②

※主な意見を抜粋。趣旨を変えない範囲で府において一部編集。

	内容
<p>もっと知りたかったこと・不安なこと等</p>	<p>【検査や身体の状態などについて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>ピルを長年服用</u>していたので、その影響で<u>現在の自分の身体の状態や卵子の数などに影響がないのか</u>気になった。 ・<u>ブラダイダルチェックとは何か、どのくらいの値段がかかって、どのような検査があるか</u>、なども知りたかった。 ・<u>ピル服用中の場合、検査の何ヶ月前に使用を控えればいいのか</u>。(※本制度ではピル服用中の受検も助成対象) <p>【妊娠に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>子宮内膜症と診断</u>され、<u>将来妊娠ができるか不安</u>。/<u>過去に卵巣嚢腫の手術</u>を受けており、不安がある。 ・<u>過去に卵巣摘出</u>しており、<u>将来妊娠を考える中で然るべき時に出産が出来るのかどうか不安やストレスが常にある</u>。 ・<u>ダウン症などの卵子の質の話</u>も聞きたかった。 ・<u>仮に凍結卵子を使って体外受精をしても不育症の対策ができていなければ、卵子が無駄になってしまうため、不育症の話もしていただけると良いか</u>と思った。<u>不育症という存在を知っているだけで、選択肢が広がることもあると思う</u>。 ・<u>妊娠しにくいと判明した場合に、医療機関でどのような治療が受けられるのか</u>。 <p>【卵子凍結について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>医療機関をどこにするか悩む。選ぶ際のポイント・指標があればよいの</u>にと思う。 ・<u>現在が最も若い日</u>と思いながらも<u>仕事が忙しく、受診日を確保できるか、実際に採卵の日程をクリアできるか</u>とても不安。 ・<u>静脈麻酔が必要な場合もある</u>と聞いたが、<u>麻酔について不安</u>。 ・<u>葉酸の摂取は卵子の採取をする際も行っていた方がいいのか</u>。 <p>【男性の不妊について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>妊娠を考える上で男性側の不妊</u>についても知りたい。 ・<u>精子の話</u>も少し聞きたかった。 ・<u>夫が遺伝毒性のある薬を服薬</u>している為、<u>諦めないといけない</u>かもしれない。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>経験談については、現在奮闘中の方のお話もあれば良いか</u>と思った。 ・<u>「若いほうがよい」というのは事実であるしわかってはいるが、それが叶わなかったため悩んで受講を決断したので、もう遅いと言われているようで疎外感</u>を感じてしまった。 ・<u>今後、卵子が増えることこもないし、妊娠しやすくなることもないと思うと、焦りと悲しさが募る</u>。何か少しでもそれを食い止めるられるような情報が多ければ前向きになれる。

早発卵巣不全患者等妊よう性温存治療助成試行事業 効果検証・評価ワーキングの開催について

ワーキングの開催目的

「プレコンセプションケアの推進により、健康についての関心を高めるとともに医学的支援が必要な方を早期に医療へつなぐ機会を提供する」という試行事業の目的を踏まえ、事業の手法、効果の検証及び評価を行う。

ワーキングメンバー

氏名	現職名	
瀧内 剛	大阪大学大学院 医学系研究科 先端ゲノム医療学共同研究講座	特任准教授
筒井 建紀	独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院 産婦人科	診療部長
中尾 朋子	関西医科大学 産科学・婦人科学講座	講師
那波 伸敏	東京科学大学大学院 医歯学総合研究科 地球環境医学分野	教授
羽室 明洋	大阪公立大学大学院 医学研究科 女性生涯医学	講師
伴田 美佳	大阪大学大学院 医学系研究科 産科学婦人科学講座	特任助教
山本 貴子	近畿大学 医学部 産科婦人科学教室	助教

座長

※敬称略・五十音順

ワーキングでの検討事項

開催日	開催形式	検討事項
令和7年4月21日(月)	オンライン	・医療機関向け説明会の開催内容について
令和7年6月20日(金)	書面開催	・府民向けプレコン講座の開催内容について ・府民向けに実施するアンケート調査の内容について ※本事業は5年間の試行事業であることから、本事業の効果検証及び大阪府のプレコンセプションケアの推進に向けた検討を行うことを目的にアンケート調査を実施
令和8年2月17日(火)	オンライン	・アンケートの調査結果に基づく令和7年度の事業評価について ・令和8年度のプレコン講座の開催内容について

【参考:医療機関説明会について】

■開催概要

開催日時	令和7年6月9日(月)より開始
開催方法	オンデマンド配信
対象者	本事業への参画を希望する医療機関において診療を行う医師
講師	大阪大学大学院 医学系研究科 先端ゲノム医療学共同研究講座 特任准教授 瀧内 剛 先生
内容	・事業概要について ・プレコンセプションケアについて ・AMH検査について

■実施状況(R8.2月末時点)

説明会 申込者数	167人
説明会 参加者数(※)	138人
登録医療機関数	76ヶ所
指定医療機関数	15ヶ所

(※)説明会終了後のアンケートへの回答をもって参加とする

登録医療機関 : AMH検査を実施する医療機関
指定医療機関 : 卵子凍結を実施する医療機関